

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102816		
法人名	有限会社サクラコーポレーション		
事業所名	悠久の里 高松西		
所在地	香川県高松市飯田町1334番地4		
自己評価作成日	令和6年10月10日	評価結果市町受理日	令和7年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周りには岩田神社や小坂自治会、コミュニセンタなど地域の人々と交流できる場があり、イベント等の参加のお誘いも頂いている。施設は木造建築で家庭的な雰囲気となっている。利用者様がお互いに助け合って共同生活を送れるよう支援を行い、楽しみを持って生活が送れるようレクリエーションや体操を行っている。また、コロナの感染症対策をしつつ家族様にも協力参加いただき外出支援に力を入れて実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

産業道路を少し入ったところにある木造平屋の建物が事業所である。中庭を通り玄関までのアプローチにはウッドデッキや植樹・プランター栽培があり、気分を和ませる。玄関を入ると小ホールがあり、地域の人との交流の場所となっている。地域では住民の活動が盛んであり、事業所にも招待があるので、感染症が落ち着くとイベント等の参加が見込まれる。職員は互いの立場に理解を示し、秀でたところは認め合っており、世帯交代も進んでいる。利用者は職員の謙虚な姿勢もあり、一緒に家事を手伝ったりして和気あいあいと日々を過ごされている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和6年12月24日

幹線道路

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際に理念をみんなで復唱し意識掛けを行っている。理念はいつでも見える場所に貼っている	毎日の申し送りの際に、職員は理念を唱和している。理念は創立以来継続しており、目配り・気配り・心配りを大切にして業務に励まれている。理念は事務所やホールなどの見える場所に掲示されている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を生かして民生委員様の地域の活動や地域のコミュニセンタ―はホームページで行事を確認している。コロナも5類に変わり外出支援も増えており地域支援や地域との交流も増やすきっかけを作っている	運営推進会議には民生委員が参加しており、地域のイベントや公民館活動等の情報も得られている。日常の散歩やお祭りやイベントの参加を通じて地域との交流が図られている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナも5類になり少しずつ外出支援や地域の行事交流に参加出来るよう取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を生かした取り組みとして施設の現状報告や施設での取り組みや問題点等を報告している。ご意見を頂き次に生かすようにしている	運営推進会議には民生委員が参加して、地域のイベントを紹介してもらっている。自治会には加入しているが交流は少ない。家族や地域包括支援センター職員の参加もあり、資料や写真等を通じて、事業所の活動に理解を得られている	活動状況を詳しくより多くの方に説明することにより更に理解と協力が得られ易くなるので、運営推進会議に近所の住民や自治会等の参加者が増加することに期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が窓口になり積極的に協力関係を築いている	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加していると同時に、サービス提供上の相談は管理者を窓口介護保険課や関係当局に積極的に問い合わせしており、協力関係が築かれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	問題点を取り上げ、会議での話し合を重ね、拘束をしないための対策と廃止に向けた取り組みを話し合い協議している。身体拘束の研修を年2回行い知識を向上している	身体拘束については定期的に研修を行い、職員の意識の向上を図っている。公道からの入り口はインターホーンで対応している。建物内の施錠はなく、自由に行動ができるようになっている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底として研修等により学ぶ機会を持つようにしている。職員間でも見過ごしの無いよう、相互に注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では最近においては利用がありませんでしたが別棟利用者に後見人を家族様により認知症の進行により後見人つけられています。後見人の役割や事業所での支援方法など今後、研修の題材にし、全職員が理解できるよう、意見交換が行える場を設けて行きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する、説明と納得については、説明する時間を十分にとっており、疑問点等は、その都度説明し納得をしていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とはコミュニケーションを密にとり、家族様とは面会時に、思いや意見を収集するよう心掛けている。また遠方の家族様は電話にて密に連絡のやり取りを行っている	利用者とは日頃から、よく会話をして傾聴されている。家族には事業所へ直接支払いにこられた際や面会時に、意見や思いが聞き取られている。何かあるとすぐに連絡を入れるなどきめ細やかに対応がなされている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行うミーティング以外の時にでも、職員が意見を述べられるよう、管理者が職員の变化に気づき声掛けを行っている	施設長と管理者は職員とよく話し合っている。職員間の気づきにより、声をかけて話をすることもあり、管理者の立場や職員の立場を互いによく理解している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、事前に希望票を作成し、希望道りに休みが習得できる様、調整している。職場環境についても棟会議等において常に意見を聴くように設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者には外部研修への参加もできるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症対策が続き他者との交流が遠のいている。代表者や職員による個人的な情報交換はしているが今後の課題にしていきたい		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人様の要望等を伺い、スタッフ間での話し合いを行っている。本人に寄り添い一つずつ安心してもらえるための解決策を練り、実践していくよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学段階より困りごとや意向について傾聴し、それに反映されたサービスを提供出来るよう家族様と再度確認、話し合いを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前より本人やご家族と密接にアセスメントを行い安心して生活できるよう支援方法を話し合い常に検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、生活歴を十分理解した上でなじみの関係が築けるよう暮らしを共にしている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2カ月に1度、お手紙や電話で状況報告を密に行っている。また、できるだけ家族様の面会の要望に合わせて面会できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人とも話し合い面会制限が無ければ出来るだけ多くの機会が持てるよう支援している。遠方の方は電話でのやりとりで関係が途切れないよう支援している	感染症対策で面会が制限されたこともあり、行き来が減少している。郵便や電話の取次ぎなどで、馴染みの関係の継続に尽力されている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事を通して両棟でなじみの関係が出来ている。いつでも両棟へ行き来出来るので関わる機会が多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等の理由で契約が終了した場合でも、その後の相談を受けたり、関係が途切れることなく継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向については定期的に本人に確認をしたり家族とも相談している。棟会議で職員全体で共有し、より良いサービスを話し合い支援を行っている	職員は利用者とのコミュニケーションを大切にしている。意向や希望を常に聞き取り、家族にも話を聞き、本人の思いや意向を把握して、サービスに活かしたいとの思いを持っている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族に生活歴や趣味など昔好んでいた嗜好品など細かく聞き取りをおこない、その人らしい暮らしができるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察に努めている。心身の状態の変化については申し送りや棟会議にて話し合いを行い本人に合わせた支援を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化がある度に、スタッフ間での話し合い、主治医に相談、家族様への報告を行いその結果を介護計画へと生かしている	ユニット会議でモニタリングを行い、計画変更時には医療関係者に意見を聞き、家族等に意向を尋ねて計画を作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを行い、その中で見つけた問題点や対策等をスタッフ間で話し合い意見交換し計画見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、家族様のその時々状況に合わせたサービスの提供を、スタッフ間で情報を共有しながら、柔軟な支援、サービスの提供を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーやお店を利用して買い物をしたり外食する等外出する機会を増やして豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院は、本人様・ご家族様の希望を優先し、付き添いが必要な時には、職員が同行もしくは家族様付き添いにて受診を行っている。家族が付き添えないときには受診前後の連絡、経過は毎回電話での報告を行っている	かかりつけ医として、事業所に往診をしてくれる医療機関を希望される方が多い。事業所の看護師が健康状態を把握しており、連携はスムーズに行われている。病院への受診は、家族の付き添いであるが、緊急時には職員が付き添っている。家族への連絡や報告は毎回行われている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化が似られた際には、施設看護師を中心に医療機関の上申を行っている。また、個人契約をしている訪問看護看護へ相談及び報告を行いいつでも支援ができるようになっていく		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に電話にて様子確認し状態把握をしており、必要時には面会等にも出向きいつでも戻れるよう体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、看取り介護について説明を行っており本人の状態に応じて看護師と共に話し合いを実施し方針を共有している。本人や家族の思いに寄り添い関係者と共に支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りの説明をしている。重度化に伴い本人や医療関係者、家族等と話し合いをして、施設で出来ることを話している。住み慣れたところでの最期を望む方も多く、事業所は関係者と協力して看取りを行うこともある	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し、定期的な社内研修等で職員へ緊急時の対応を確認するようにしている。不安要素があれば直ちに職員に再確認を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練等の災害訓練を行事に入れており、災害時の備蓄も行っている。民生委員の方や小坂地区の会長との意見を交わし地域の防災訓練について把握している	避難訓練は定期的に年2回は実施されている。備蓄品についても3日間は確保されている。地域の防災活動への参加も検討されている	特に夜間の災害時には、地域の方の協力が必要と思われます。地域防災訓練への参加や運営会議での活動を通じて、更に地域の協力体制の発展に期待します

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の過去の生活歴や暮らし方を職員全員で共有してその方の考え方や意見を尊重している。プライバシーについても研修で生かせる取り組みもしている	利用者のこだわりを理解して、気持ちよく暮らせることを目標に利用者と接せられている。プライバシー保護についての研修も年間計画に取り入れて実施されている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望について日常の中で何うように努めている。利用者の状況に応じて「はい」「いいえ」等の短い言葉で返事が出来るようにしたりどちらかを選ぶよう支援している。また、過去の生活歴も参考にしてグループホームでも快適に過ごす事が出来るよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けを行い、本人の意思決定を尊重している。その希望に沿って出来る限り支援できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時など本人が好む身だしなみやおしゃれについて声をかけている。化粧品や衣類について希望があれば家族相談して支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の中に食レクやおやつレクを導入している。利用者が好む献立について意見をうかがっている。声掛けにて盛り付けや食器の下膳、お盆ふきや台拭き等職員と一緒に手伝っていただけている	普段は業者にお惣菜を頼んでいるが、行事の時には食事作りやおやつ作りをされている。キッチンで料理を始めると、周囲には利用者が集まり、職員と一緒に作業を楽しまれており、日頃にも増して食欲も格別とのことである	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量については食事管理をしている。特に食事量や水分量が少ない方は医師と家族に相談して栄養食品や経口補水液等、健康管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内ケアの支援を行っている。口腔スポンジや入れ歯のポリグリッド等必要な方に応じて支援している。口腔トラブルがあれば訪問歯科の坂東歯科と提携しており、本人家族の了解のもと治療を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄管理表にて排泄する時間帯を把握し定期的に声掛け促しトイレで排泄できるよう支援を行っている。できるだけ自分ができることはして頂くようゆっくりと見守り補助を行っている	排泄管理表に基づき、トイレ誘導等がなされている。自分で出来ることは自分で行えるようワンクッションを置いて、支援の手を出すよう心掛けられている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便管理表を行っており、便秘薬に頼らず一日の水分量の把握や体操等運動に心がけている。また腹部マッサージの支援により排便が出やすいよう支援をおこなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はローテーションでなっているが夏場など汗や汚れ等その時に応じて入浴が出来るように努めている。本人の要望があれば入浴日を変えて対応している	入浴は看護師が健康状況を調べるため時間は限られるが、1人週2回は入浴が実施されている。入浴時は利用者の性格や好みを熟知して配慮がなされており、季節ごとにゆず湯やしょうぶ湯なども行われている。また汚染時等には適宜の対応もなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や安眠については本人のタイミングに沿って対応している。起床時間も本人に併せて行っている。認知症が重度の方で意思決定が困難な方は様子観察を行い、支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬について職員全員が把握するように努めており、薬の変更時は薬剤師に副作用など注意点を聞くことができるよう連携している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や趣味などを把握しレクリエーションに取り入れている。余暇時間など天気の良い日は外気浴や散歩を行い気分転換出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス等感染症予防のため以前より回数は減っているが行事等で買い物や季節を感じる場所へ出かけている。家族様にも外食や外出の協力依頼し支援することが出来ている	コロナが5類になり、利用者の希望を聞いての外出が再開されている。利用者の喜ぶ顔が励みとなり、家族にも参加を呼び掛けて外食等も再開されている。どこへ行きたいか、何がしたいかと利用者呼びかけるなど日頃からの準備がなされている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はトラブルになるため家族様をお願いしているが本人の意思により少額のみお金を持つようにして頂いている。周辺のスカイファームさんでアイスを買ったり自動販売機で好む飲み物を買われている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の思いを尊重して電話はいつでもできるように努めている。家族様の要望により定期的に電話でのやりとりが出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が木材を使用しているため家庭的な雰囲気な環境であり、リビングはソファを設置しておりいつでもゆったりと座れるようにしている。北棟への行き来も自由である	玄関を入ると、ユニット間を繋いでいる廊下が左右に伸び、利用者はユニットを自由に移動して活気がある。壁面は手づくりの作品が並び、温かい雰囲気がある。利用者はリビングに集い、職員と一緒に家事をするなど思い思いに過ごされている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者と交流できる場を作っている。また北棟の利用者とも気軽に交流できるよう職員が間に入り支援をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔なじみの物や以前の暮らしに近づけれるよう家族と相談して居心地よい生活ができるよう工夫している	居室を間違えないように大きな文字で氏名が表示されている。壁はスギの板を貼り落ち着いた色合いとなっている。各居室には、ベッド、カーテン、エアコン、半間の押入れが装備されており、日当たりの良いベランダもある	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は常に障害物の無い広い空間を用意しており利用者それぞれの残存能力を職員全体が共有して自立ができるよう支援している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、スタッフ全員で理念唱和し、理念の共有を行っている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との関わる機会を少しずつ持つて るよう、近所を散歩しその中で地域の方に挨拶 をしたり、職員が仲介に入りながら会話を したり、地域イベントへの参加を行っている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	今後、関わっていただく機会を増やすため、 なかにわの野菜や植物を植える際に協力を をいただく事で施設への出入りが増え、ご利 用者と関わっていただく事で認知症への理 解へと繋げている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	運営推進会議を生かした取り組みとして、施 設の現状報告や、ヒヤリハット、事故報告を を行い、意見交換し、施設への要望やアドバ イス等をサービス向上に生かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	管理者が窓口になり、積極的に協力関係を 築いている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	問題点を取り上げ、会議での話し合を重ね、 拘束をしないための対策への話し合いを常 におこなっている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所 内での虐待が見過ごされることがないように 注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底として研修等により学 ぶ機会を持つようにしている。職員間でも 見過ごしの無いよう、相互に注意を払って いる

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度利用者が1名おられる為、後見人制度に関して、学ぶ機会を作る必要性がある
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する、説明と納得については、説明する時間を十分にとっており、疑問点等は、その都度説明し納得をしていただいている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とはコミュニケーションを密に取り、ご家族様とは面会時に、思いや意見を収集するよう心掛けている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行うミーティング以外の時にでも、職員が意見を述べられるよう、管理者が職員の変化に気づき声掛けを行っている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、事前に希望表を作成し、希望通りに休みが習得できる様、調整している
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場の状況を見て、希望者には外部研修への参加もできるようにしている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や、相互訪問に関しては、行えていないため、今後の課題にしていきたい

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人様の要望等を伺い」スタッフ間での話し合いが行っている。本人様に寄り添い一つずつ安心して頂けるための解決策を練り、実践していくよう努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学段階でも困りごと等をお聞きし、それに関する時間の確保をすることで、納得された上で、利用していただけるよう努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の契約段階でご本人、家族と共に話し合いを行っている。今までの生活の様子を詳しく伺い本人様に合ったサービスの提案を行っている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、その方が行ってきたことを職員と共に楽しみながら行ったり、残存能力を生かせる物事を考え実践している
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の足が施設から遠のくことの無いよう、2カ月に一度、お手紙で状況報告をしたり、お電話を差し上げるなどし、面会をお願いしたりしている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を家族様だけに限らず、友人等の希望があれば、快く受け入れるよう、心掛けている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、ラジオ体操を実施することにより、施設全体で交流ができるようにしている

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等の理由で契約が終了した場合でも、その後の相談を受けたり、関係が途切れることなく継続している
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、本人の希望や以降に添えるよう、日々の生活の中で、何気ない発言を聞き逃さないように努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や、本人様に話をお聞きしながら、その中で、生活歴等の情報収集に努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録により、一日の過ごし方、心身状態等の把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化がある度に、スタッフ間での話し合いを行ったり、主治医に相談をしたり、家人への報告を行ったりをし、その結果を介護計画へと生かしている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、ケアを行い、その中で見つけた問題点や、それに対する対策をスタッフ間で話し合いをし、意見交換しながら、結果を計画見直しに生かしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家人のその時々状況に合わせたサービスの提供を、スタッフ間で情報を共有しながら、柔軟な支援、サービスの提供を行っている

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者と共に買い出しに行くことがあり、その際にはご利用者自身の買い物もご家族様了解の下、行っている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院は、本人様・ご家族様の希望を優先し、付き添いが必要な時には、職員が同行もしくは家族様付き添いにて受診を行っている。家族が付き添えないときには受診前後の連絡、経過は毎回電話での報告を行っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化が見られた際には、協力医療機関の看護師を通じ、医師へ報告し、相談できる様、支援している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療内容の把握、計画に基づき、入院前の生活に戻るよう、支援を行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の現状を把握した上で、関係者を含めて統一した方針を、契約書に記載し、入所時の契約段階で説明し、確認していただいている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し、定期的な研修時等を利用し、職員へ緊急時の対応を確認してもらえるようにしている。不安要素があればそれを他の職員へ再確認を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に専門の方に来ていただき、火災発生時の報知機や消火器の使い方を教えていただいたり、研修を行い災害時の対応についてぶと共に実践している

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で、声掛けの仕方について注意を払っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に寄り添い、今したいこと、逆に今はしたくないことをお聞きしながら、無理強いしないよう、心掛けている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の役割などへの声掛けを行い、職員のペースにならないよう、支援を行っている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服装の繰り返しになることの無い様、可能な方にはご自分で服を選んでもらい、そうでない方には、職員がバランスを考えながら選んでいる
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けは見守りの中利用者とともに、行い、刻みや、ミキサー食の盛り付けは職員が行っている。食後のお盆拭き、テーブル拭き等、可能なことは、声掛けし、利用者に手伝っていただいている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の途中に席を立たれることがあっても、すぐに下膳するのではなく、声掛けし、再度摂取していただくよう促している。食事量が極端に少ないと判断すれば、時には介助をしながら全量摂取に、努めている。また、水分は細めに提供し、水分摂取に努めている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず、口腔ケアへの声掛けを行い、自力では困難な方に対しては、職員が介助することにより、口腔内の清潔保持を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を用いてその方の排泄パターンを理解し、さりげなくトイレへの声掛けを行い、週刊付けを行っている。自力で困難な方に対しては、誘導し、介助を行っている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には、主治医に相談したり、職員同士で改善方法を話し合いし、実践している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は設定しているが、その日の体調や気分により、拒否されたかたにたいしては無理強いすることなく、後日介助するようにしている。また、季節により、柚子を入れたりし、季節感を感じていただけるようにしている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、入室を促すよりも、納得いくまで、ホールにてテレビを見たり、利用者様同士の会話を楽しんでいただく等、本院様のペースに合わせている。また、日中も、本人様の石を尊重し、休息をしたいタイミングでしていただいている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握できる様、薬情をまとめたファイルを作成し、見やすい場所に保存している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、役割を決め、声掛けを行っている。また、レクリエーションではゲームを取り入れるなどし、日々を楽しんでいただけるよう支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦において、外出が困難となっているが、天気の良い日には、中庭を散歩したり、レクの一環として中庭でおやつを提供している

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内にお金を使用できる場所がなく、お金の管理は事業所で行っている。、本人が希望する品物がある時には、会社で購入後本人より料金を頂いている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様契約にて携帯電話を使用したり、本人様より希望がある場合、会社内の電話を使用し会話していただく。希望があればすぐに対応できる様、支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風通しを良くし、閉鎖的な空間を避けている。廊下には季節感のある利用者自ら作成した作品を展示したり外に撮影した写真等を展示したりしている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする場所の隣にTV、ソファを設置しており誰もが利用できる場所にしている。一人一人に居室があり扉を閉めることにより独りになれるようになっている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様よりお持ちいただいた写真やお花又、昔から使い慣れているものをお持ちいただき、それをお部屋に飾ることで、落ち着いた空間の中で過ごすことが出来ている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	菜園がお好きな方には花の選定を行っていただいたり、草抜き等を職員と共に行ったり、洗濯量やお分拭き等、自席にて行えることを手伝っていただいている